

子どもの発達の支援などの情報を
ウェブサイトで発信しています。



名古屋市の運営する「子ども発達支援」についての情報サイトです。

掲載している
情報

- 子ども発達支援の施策紹介
- 地域療育センターの紹介
- 児童発達支援給付・放課後等デイサービス給付の紹介
児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所の検索
- 子どもの発達の診察のできる医療機関の紹介
- 子どもの発達に不安を感じる保護者などの団体や
サークルの紹介



名古屋市の運営する「医療的ケアの必要なお子さんの支援」
についての情報サイトです。

掲載している
情報

- 医療的ケア児のサポート一覧
- 医療的ケア児の各種相談窓口
- 医療や福祉のサポートを提供する事業所一覧
- 災害の備え
- 医療的ケア児の保護者団体の紹介

★発行月：令和7年4月
★編集：企画室Ponte
★デザイン：(株)ハーボック

発行：名古屋子ども青少年局子ども福祉課

名古屋市の

早期子ども発達支援の 取り組み

お子さんの発達の不安をサポートします



こんなことはありませんか？

ちょっと気になるウチの子の

いつものお子さんの行動や様子のなかで、
ママやパパが「あれ？」と思っていることはありませんか？

あれ？

何度も呼んでいるのに...

遊びに夢中で、
まったくこっちに気づかない。
いつもこうなんだよね。
同じ遊びを1人でずーっと繰り返して、
飽きないのかな？



スーパーでお買い物なのに...

「一緒にいて」って言っているのに、
突然走り出したり。
ちょっと目を離すと、
すぐにどこかに
行っちゃう。



いろんな食事を作ったのに...

おいしそうな料理をたくさん作ったのに、
どうしていつも白いご飯しか
食べないのかな？



あんな不安定な場所に のぼってる...

自分の背より高い
カラーボックスの上にのぼるなんて、
下に落ちたらたいへんだよ、
怖くないのかな？



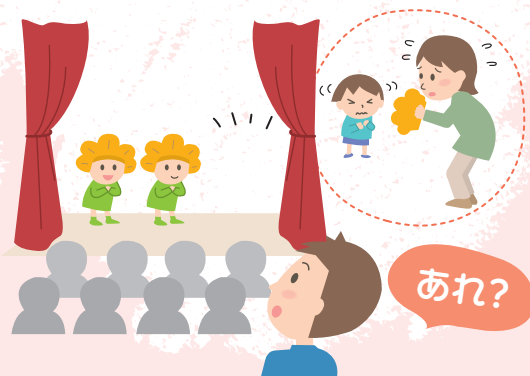
2歳のお誕生日!...

いつになったら、しゃべるのかな？
話しかけても何も言わずに、
だまっただまま...



保育園の発表会...

みんな楽しそうにお遊戯しているのに、
ひとりだけ出てこないよ。
また衣装を着るのを嫌がっているのかな？



せっかくのお出かけなのに...

DVDだからいつでも好きな時に見られるよ。
たまにしかない、お出かけのほうが
楽しみじゃないの？



お昼寝もしていないのに...

いっぱい遊んだし、
お昼寝もしていないのに、
どうして夜遅くなくても眠くならないの？

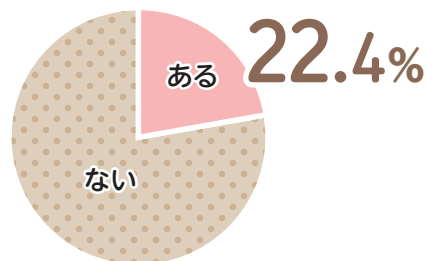


子どもの発達について悩むことは 特別なことではありません

子育てのなかで、お子さんの発達に不安を感じているものの、
どうすればよいか分からずに、悩みを抱え込んでいませんか？
発達に専門的なサポートが必要なケースは、めずらしいことではありません。
これまでにたくさんの子どもが発達支援を利用しています。

Q 他の子どもと、すごく違うわけではないけれど…
心配しすぎなのかな？

A 子育て中の**5人**に**1人**が
子どもの発達に不安を感じたことがあります。



小学校に入学するまでに、子どもの発達に不安を感じたことがある保護者は2割以上います。不安の内容は身体機能の発達であったり、こころの発達に関わることなどさまざまです。

「不安を感じたことがある」の主な内容

- 落ち着きがない、
こだわりが強いなどの気になる行動が見られる。…… **23.3%**
- 年齢に対して言葉が遅れている。…………… **18.4%**
- 友だちと遊べない …………… **10.1%**
- 身体の発育が遅れていたり、発育が気になるところがある。…………… **9.2%**
- 食事、排泄、衣服の着脱など身の回りのことをする力が身についていない。 **8.3%**
- 人に関心がなかったり、人見知りが特に強い。…………… **6.9%**
- 年齢に応じた運動ができない。…………… **6.1%**
- 知的な発達が遅れている。…………… **4.8%**

Q 発達の専門機関を利用するのは、
少し大げさな気もするけれど…

A 就学前の**10人**に**1人**が
発達の専門施設 地域療育センターを
利用したことがあります。

名古屋市の事業利用実績より



※名古屋市立の小学校は、
1・2年生は1クラス約30人。

専門家からのコメント

子どもの健やかな育ちのために、早めの相談を

愛知県立大学 教育福祉学部 教授 三山 岳さん

子育てのなかで、我が子の育ちがふと心配になることがあります。同じ年齢の他の子どもを見てそう感じる人もいれば、子育てがうまくいかないと悩んでいる時にそう感じる人もいるでしょう。子どもの発達について悩むことは決して特別なことではありません。しかし、悩みを解決しようとして調べた情報が不正確で誤解を生み、さらに悩みが深くなってしまう場合があります。

そのような時、保健センターや地域療育センターにいる経験を積んだ発達の専門家への相談が、マイナスになることは決してありません。悩みは自然に気にならなくなる場合もある一方で、お子さんに支援が必要な場合もあります。親だけであれこれ悩むのではなく専門家に相談することで、一人ひとりに応じたサポートと一緒に考えることができます。子どもの健やかな育ちのために「あれっ?」と感じたら、ぜひ早めの相談をしてみてください。

名古屋市では「地域療育センター」を中心に、 お子さんの発達と保護者の不安のサポートに取り組んでいます。

地域療育センター

地域療育センターは早期子ども発達支援(就学前の子どもの発達の支援)の中核施設として、発達に特性のある子どもの通園施設と診療所を一体的に運営しています。また、早期子ども発達支援と子育て支援を一体的に進めるための地域連携や子どもの発達についての保護者の不安などの相談に応じ、支援することを目的とした地域支援・調整部門の設置を順次進めています。子どもの発達に関する専門スタッフが、発達相談、初診前サポート、診療、ハビリテーション(機能訓練)、療育グループ、通園型発達支援(→16ページをご覧ください)など、お子さんや家庭の状況に応じた支援をしています。

診療部門

- 小児科・整形外科・精神科・耳鼻咽喉科などの診療をします。
(地域療育センターにより診療科目が異なります)
- 理学療法・作業療法・言語聴覚療法などのハビリテーションを行います。

通園部門

- 支援が必要なお子さんを対象に、少人数のクラス編成で継続的な発達支援を行います。
- 保護者へ、親子関係の構築に関する助言や進路相談などの支援をします。

地域支援・調整部門

- お子さんの発達の悩みなどの相談に応じます。
- お子さんにとって適切な発達支援の利用を支援します。
- 初診前サポートとして、早期の面談や初診前グループなどを行います。
- 民間医療機関と連携して医療と福祉の切れ目なく支援します。
- 地域の子育て支援施設と連携してお子さんの発達を支援します。
(連携先:保健センター、保育所等、幼稚園、子育て支援拠点、事業所等)

地域療育センター連絡先一覧

未就学のお子さんの相談は、居住区を対象エリアとする地域療育センターへご連絡ください。
小学校就学～18歳までのお子さんの相談は、中央療育センターが担当します。

名前	住所	連絡先	対象エリア	受付時間
中央療育センター	昭和区折戸町4-16 (児童福祉センター内)	電話 757-6126 FAX 757-6129	中、昭和、瑞穂、 熱田、天白	月～金 8:45～17:15
西部地域療育センター	中川区小本一丁目 20-48	電話 361-9555 FAX 361-9560	中村、中川、 港	
北部地域療育センター よつば	西区新福寺町2-6-5	電話 522-5277 FAX 522-5279	東、北、西	
南部地域療育センター そよ風	南区三吉町6-17	電話 613-7744 FAX 612-3411	南、緑	月～金 9:00～17:00
東部地域療育センター ぼけっと	千種区猫洞通 一丁目15	電話 784-5300 FAX 782-0771	千種、守山、 名東	

利用までの流れ

お子さんの発達に関する心配や子育てに関する悩みなど、まずはお電話にてご相談ください。

お子様の状況について簡単な聞き取りを行い、初回相談の日時を決定します。

ご予約の日時に、面談等※を実施します。
※保護者の方からの聞き取りや、
子どもの遊んでいる様子の観察など

お子さんの状況やご希望に応じて、初診前グループによる支援を開始します。

保護者の方と相談しながらお子さんの支援をすすめます。
必要に応じて初診の予約をとり、診療所と連携して支援を行います。

- 発達相談後も必要に応じて再診などのフォローをおこなっていきます。
- お子さんの年齢や状態に応じて初回相談の際に診察・検査等を行う場合があります。

★早期子ども発達支援の方針(第2期)では、地域療育センターの拡充を予定しています。

➡詳しくは16ページへ

お子さんの発達をさまざまなスタッフがサポートします

地域療育センターでは、さまざまな専門スタッフが連携してお子さんの発達のサポートや保護者への支援をしています。

専門スタッフの例

医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理担当職員、保育士、児童指導員、栄養士、ケースワーカー、相談支援専門員など

発達相談

ことばの遅れ、運動発達の遅れ、友達と遊べない、落ち着きがないなど、お子さんの発達に関する心配や悩みをお気軽にご相談ください。相談内容に応じて、医師の診察や専門スタッフによる各種検査を行い、お子さんにとって最適な方向を見つけていきます。



診療

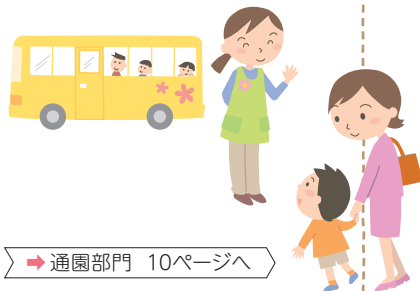
医師による診療とハビリテーション(機能訓練)を予約制で行っています。ハビリテーションは医師の指導監督のもとに行います。

※診療科目は地域療育センターにより異なります。
※利用には診療報酬制度に基づく自己負担があります。自己負担分には名古屋市福祉医療費助成制度の医療証(子ども医療証、障害者医療証、ひとり親家庭等医療証)が使用できます。



通園

年齢、発達状況に応じた少人数のクラスを編成し、規則正しい生活と一定のプログラムを毎日繰り返すことで、基本的な生活習慣や社会生活への適応性を身につけるためのきめ細かい支援を行います。また、年間カリキュラムに沿った活動や季節の行事などの体験を通して、心身の発達を促します。親子通園などによる保護者への支援も実施しています。



→ 通園部門 10ページへ

療育グループ

少人数グループでの親子教室です。親子が楽しく参加できるようなプログラムを通して子どもの発達を促すとともに、安定した親子関係の構築をサポートします。お子さんの発達状況に応じたアドバイスや専門スタッフによる保護者向け学習会なども行います。



就園前グループ

保育所等や幼稚園に入る前のお子さん(主に1~2歳児)

並行グループ

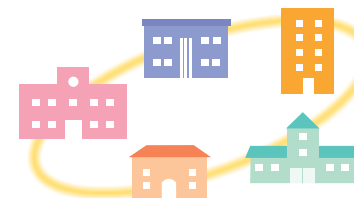
保育所等や幼稚園に通うお子さん(主に3~5歳児)

上記の2つのグループがあります。地域療育センターでの発達相談の結果をもとに保護者と話し合って利用を決定します。

連携しての支援

保健センターや医療機関、保育所等、幼稚園、学校など関係機関と連携してお子さんと保護者を支援します。

→ 地域支援・調整部門 12ページへ



ともに育つ、みんなの場 通園部

地域療育センターの通園部門は、発達に特性などのあるお子さんが日々通う施設として生活リズムづくりなどの支援をしています。

やりたいがいっぱい 通園部の日

1日の生活の例

8:50

通園バス出発
(順路に沿って順に乗車)

10:00

通園バス到着・登園
トイレ・着替え
朝の会(手遊び歌など)
課題遊び

12:00

給食
歯磨き・トイレ
お昼寝

14:20

自由遊び
おやつ
トイレ・着替え
帰りの会

15:00

降園・通園バス出発
(順路に沿って順に降車)

※一日の流れは各センターにより異なります。

支援の内容

- 年間カリキュラムに沿った活動や季節行事などの体験を通して心身の発達を促します。
- 給食があります。
- コースを決めて巡回する通園バスを運行しています。



※利用にかかる自己負担はありません(国の幼児教育・保育の無償化制度及び本市独自の発達支援にかかる無償化制度)。利用料以外にも給食費が必要なほか、実費が必要な場合があります。

※通園部を保育所等や幼稚園に通いながら利用することはできません。

通園部を利用した 保護者の 声

毎日通うことで生活にリズムができました。医師、保育士、スタッフ、お友だちなど多くの人の関わりが子どもに刺激になったようです。家族だけの限られたコミュニケーションでは出てこなかった表情や反応をするようになりました。

子どももママも、一日中家の中で2人きりで過ごすのはストレスになります。外に出る機会ができたのは良かったです。同じ境遇のママたちと意見を共有できたことで、子どもだけでなく私も救われました。

子どもの笑顔が増えました。早く発達の遅れをなくそうとして焦っていましたが、「みんなと同じでなくても、この子のペースで育てばいい」と言われて、肩の荷が下りたように感じました。今では家族みんなが笑顔で過ごしています。

これまで人にまったく興味がなかった子でしたが、保育士さんやセンターに慣れはじめ、今では通園を楽しみにしています。みんなと一緒に覚えた遊びを家でもすることがあります。

児童館などでの催しに参加したことがあります。順番に並べなかったり、集団行動ができないので、子どもにも私にも負担でした。ここでは子どもの行動を全て肯定的にとらえてくれます。子どもが伸び伸びできて、私も安心です。

顕著な発達の遅れがない場合に「自分の子はきっと大丈夫」と思いたくなります。けれど、そこで少し間をおいてしまうことは、子どものメリットにはなりません。また、地域療育センターを利用すると「学区の小学校に入学できないのでは?」という、間違った思い込みもあるようです。私の2人の子どもはセンターに通った後に通常学級に入っています。振り返ってみても、利用したことでデメリットはありませんでした。

医師から

子どもの可能性を信じて見守る

お子さんの目線、立場に立って、お子さんの気持ちを理解しよう心がけています。そのお子さんの気持ちを代弁するようにしてママやパパとお話することで、一緒にお子さんへの理解を深め、お子さんの良いところを見つけています。お子さんの今の姿だけを見るのではなく、お子さんの可能性を信じて見守ることが大切です。不安なまま子育てすることは、お子さんにとっても望ましくありません。お子さんの状態をしっかりと把握して不安を解消するためにも、まず相談してください。私たち専門家と一緒に、自信をもって子育てをしていきましょう。

保育士から

子どもたちが安心できる場所として

お子さん一人ひとりの個性や性格を知り、好きな遊びを通して信頼してもらえる関係を築き、お子さんにとって「安心できる場所」であるようにしています。そのことが「やってみよう」と、お子さんの気持ちが動くきっかけにもなります。ママやパパから家庭の様子や困りごとなどを気軽にお話ししてもらえるよう、何気ないコミュニケーションも大切にしています。同じお子さんでも、立場や職種によって見え方が変わってくるので、できるだけ多くの人の意見を聞くようにしています。ここには様々な職種のスタッフが揃っていることで子どもの理解に役立っています。

早期子ども発達支援と子育て支援に一体的に取り組めます

地域療育センターと保健センターや保育所等・幼稚園などが連携し、一体となって子どもの発達の不安に寄り添い、支援しています。

名古屋市ではさまざまな子育て支援事業を行っており、保健センターでの子育て支援や子育て家庭が集まる交流できる場の運営などに取り組んでいます。また、保育所等(保育所及び認定子ども園)や幼稚園では発達に特性のあるお子さんを受け入れています。地域支援・調整部門ではこのような事業と連携・協力して発達に特性や不安などがあるお子さんとママ・パパをサポートしていきます。

保健センター

保健センターでは子育ての悩みなどの相談に応じています。お子さんと保護者の状況に応じて医療機関・地域療育センターなどの専門機関も紹介しています。

子育て
総合相談
窓口

千種区	757-7033	熱田区	679-3086
東 区	979-3588	中川区	364-0065
北 区	910-6815	港 区	655-8745
西 区	529-7105	南 区	619-7086
中村区	483-6811	守山区	797-5220
中 区	269-7155	緑 区	899-6518
昭和区	745-6030	名東区	769-6288
瑞穂区	837-3285	天白区	847-5981

◎電話相談：月～金曜日 8時45分～17時15分(祝日、年末年始を除く)

◎来所相談：月～金曜日 9時～16時30分(祝日、年末年始を除く)

保健センターで実施しているサポートの例

乳幼児発達相談

乳幼児健診などで気になることがあった場合、身体発育や発達に関する個別相談、親子で参加する形式の相談を予約制で行っています。

保健師の訪問

妊娠期から就学まで妊産婦や子どもに対して、必要に応じて保健師が家庭訪問等を行っています。発達の心配がある場合はご家庭や保育所等を訪問し、お子さんの様子を確認しながら相談に応じています。

親子の遊び場

主に0歳から3歳までの子どもとその保護者がいつでも気軽に集い、交流できる場です。絵本やおもちゃがたくさんあるひろばで自由に遊べるほか、所定の研修を修了した子育て支援スタッフに子育ての悩みなどを相談できます。

「地域子育て支援拠点」「子育て応援拠点」「地域子育て支援センター」「子ども・子育て支援センター(758キッズステーション)」等があり、利用料はすべて無料です。



※講座の参加などについては、実費が必要な場合があります。

※子育て応援拠点で実施している一時預かりは、利用料金がかかります。

実施場所など詳しくは
「なごや子育てアプリ なごみー」で



市公式ウェブサイト

保育所等

保育所等では、心身の発達に特性のある、集団保育が可能な子どもの受け入れをしています。保育所等は、就労する※保護者にかわって子どもを保育する施設ですが、おおむね3歳以上のお子さんで発達の特性の程度などが一定の基準にあてはまる場合は、就労していない世帯でも「発達援助」という事由で利用できます。また、発達に特性のあるお子さんの状況に応じて、補助職員が担任とともにクラス保育を行い、お子さんの発達を支援します。

※就労以外にも、その他疾病、親族介護など受け入れ可能な場合があります。

幼稚園

名古屋市立幼稚園では、発達に特性のあるお子さんの状況に応じて、可能な範囲で受け入れをしています。各園に1人、発達障害対応支援員が配置されています。また、必要に応じて学校生活介助アシスタントや看護介助員が配置されています。

お子さんの発達の不安をさまざまな形でサポートします

地域支援・調整部門ではさまざまな形で発達の不安をサポートします。保護者の方がお子さんの発達に不安を感じた時の相談や初期段階の支援を保健センター、保育所等・幼稚園などと連携・協力して行います。また、保育所等や幼稚園に通いながら支援を受けられるようにします。

不安を感じたときの相談

保護者の方がお子さんの発達に不安を感じた時に、相談に応じます。まず、面談を行い、保護者からの聞き取りや子どもの遊んでいる様子の観察などにより子どもの現状を確認し、適切な支援の方向性について助言します。

はじめの支援

面談後は子どもの発達の状況や保護者の希望になどによって、初診前グループによる支援や医師の診察など、子どもにとっての最適な支援を保護者と一緒に考え、進めていきます。地域療育センターで支援するほか、家庭での保護者の方の子どもへの関わり方などへのアドバイスも行います。

専門家からのコメント

お子さんの発達を促す3つの声かけ

名古屋市立大学病院こころの発達診療研究センター 公認心理師・言語聴覚士 山田 理恵さん

最新の子どもの発達に関する研究では大人が子どもと遊ぶ時に3つの声かけを使うと子どもの発達や親子関係にいい影響を及ぼすことがわかっています。

(出典：CARE™プログラム)

- ・子どもの声や適切な言葉を繰り返すと、子どもの発話を増やします。
- ・子どもの適切な遊びを実況中継すると、子どもの集中力を高めます。
- ・子どもの良い行動を具体的に褒めると、子どもの良い行動が増えるでしょう。

お子さんと遊ぶ時や普段の関わりでも大丈夫。お子さんに3つの声かけを使ってみませんか？

毎日の関わりがお子さんの発達を促し、親子の笑顔も増えるでしょう。

保育所等や幼稚園に通いながらの支援

保育所等や幼稚園に通いながら、子どもの状況に応じた適切な支援を行います。

療育グループ(並行グループ)

保育所等や幼稚園に通いながら、地域療育センターの療育グループを利用することができます。主に3～5歳児を対象とする親子教室で、少人数グループでの活動や専門的なアプローチにより、集団への参加や自己表現力の向上を図ります。また、個別や集団でのカウンセリング等を通して、保護者の方の疑問、悩み、不安などに丁寧に対応します。

地域療育センターと保育所等の連携

発達に特性のあるお子さんが通う保育所等や幼稚園を地域療育センター職員が訪問し、環境調整や支援方法等について助言しています。また、地域療育センターの通園部門や療育グループを卒園・退園したお子さんのアフターケアとして、進路先へ訪問し、お子さんが新しい生活に早く馴染めるように援助しています。

一体となって子どもの発達をサポートできるよう

職員もスキルアップ

名古屋市では、保護者の方やお子さんの状況に応じて、必要な発達支援ができるよう、地域療育センター、保健センター、保育所等、幼稚園の職員が子どもの発達や発達支援について一緒に学び、考える研修を継続的に実施し、人材育成を進めています。



早期子ども発達支援の方針(第2期)

～地域療育センターを中核とした早期子ども発達支援の体制を拡充します～

施策目標

- ◎ 一人ひとりの子どもと保護者の悩みにきめ細やかに応じ、より添う相談体制
- ◎ 診察を必要とする子どもが適切な時期に診察を受けられる体制
- ◎ 保育所等や幼稚園に通いながら適切な発達支援を受けられる体制
- ◎ 通園部門での発達支援を必要とする子どもが必要な時期に支援を受けられる体制

早期子ども発達支援体制の構築

市内をエリアに分けて早期子ども発達支援の拠点施設として地域療育センターを配置します。それぞれのエリアの状況に応じて民間医療機関や子育て支援施設と連携・協力し、子どもの発達や保護者の不安をサポートしていく体制を作ります。

早期子ども発達支援の体制イメージ

※ 直接的発達支援

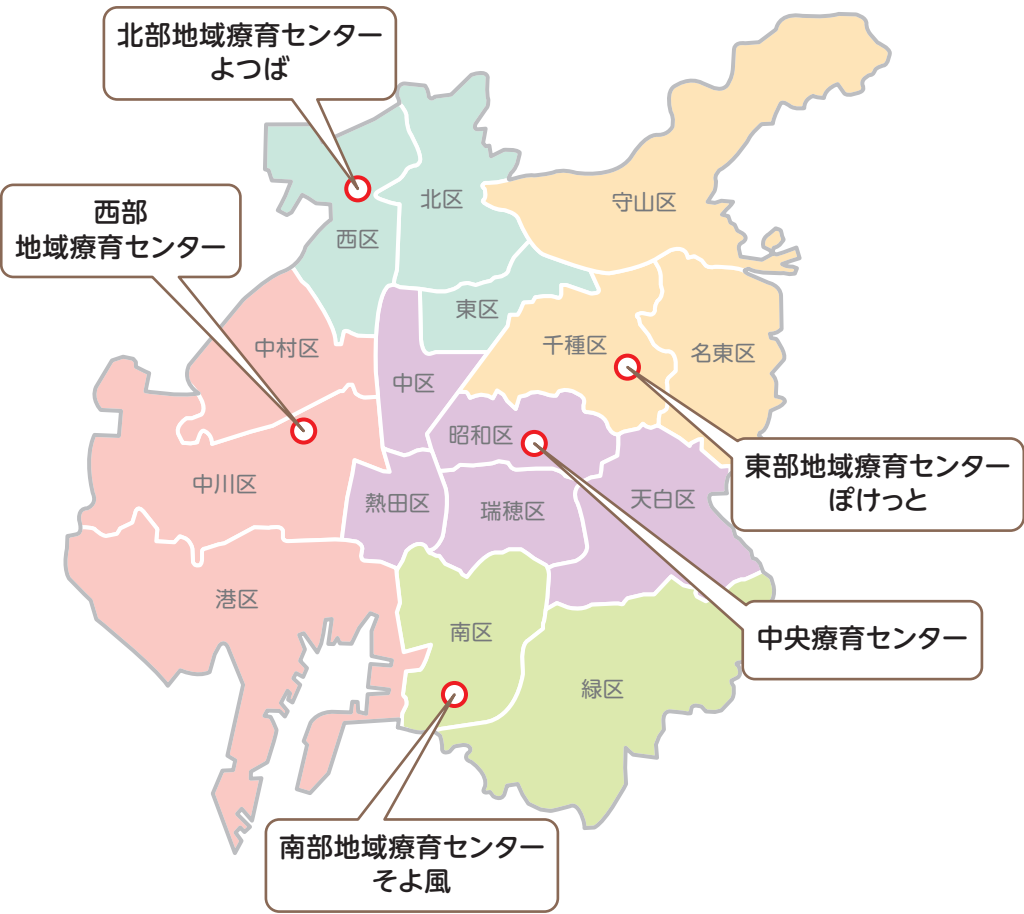
	発達に不安のある子どもと保護者	直接的発達支援が必要な子ども
施設の種類	子育て支援施設・医療機関	地域療育センター
診療	一般医療機関	診療部門
相談	保健センター、幼稚園、 保育所等、子育て支援拠点等	地域支援・ 調整部門
発達支援		幼稚園・保育所等 + 事業所 通園部門

言葉の説明

- 直接的発達支援 …… 子どもの発達を促す直接的な支援(通園型発達支援、利用型発達支援、ハビリテーション等)
- 間接的発達支援 …… 直接的発達支援以外の発達に対する支援が必要な子どもと保護者への支援(不安の相談、初期段階の支援、相談、診療等)
- 通園型発達支援施設 …… 子どもが日々通園して定期的・継続的に適切な直接的発達支援を受ける児童発達支援センターの通園部門
- 利用型発達支援施設 …… 必要に応じて子どもが利用して直接的発達支援を受ける児童発達支援事業所。幼稚園・保育所等に定期的・継続的に通う事を前提として、これを補う。

地域療育センターの配置・整備

地域療育センターは現在、市内を5か所に分けたエリア制の運営をしています。方針(第2期)では、長期的な視点に立って配置・整備を進めていくこととしており、まずは6か所目の整備を東部エリアで行う方針です。それ以降の配置・整備については市内8か所を目標として、引き続き検討を進めていきます。現在のエリアについても、早期子ども発達支援の体制構築の検討と並行して、見直しも含めて検討していきます。



早期子ども発達支援の方針(第2期) はこのように進めます

第2期方針の5年間で進めます

地域療育センターを中心とした全市の早期子ども発達支援体制について

- 早期子ども発達と子育て支援が一体となった早期子ども発達支援体制構築の検討
- 地域療育センターのエリアや配置についての検討
- サテライト拠点の設置の検討

地域療育センターの運営内容の充実

- 地域支援・調整部門の拡充
- 地域療育センターの運営内容の見直し(低年齢児の支援、家庭環境にかかわらず地域療育センターの支援が受けられる体制整備など)
- 地域療育センターと民間医療機関、子育て支援施設の連携・協力の強化
- 人材確保・人材育成
- 中央療育センター通園部門の一元化

子どもの発達に関する診療体制の充実

- 地域支援・調整部門に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を配置
- 名古屋市立大学寄附講座と連携した子どもの発達に知見を持つ医師や医療スタッフの育成・確保
- 子どもや子育てに関わる職員を対象とした発達支援研修プログラムを開発

長期的な視点で検討します

「横のつながり」をさらに強化

ライフステージに応じた切れ目のない支援実現のため「縦のつながり」を構築

- 早期子ども発達支援と子育て支援の一体的実施の推進
- つながりの強化の基盤として発達障害についての社会理解の促進(発達障害啓発プロジェクト)
➡詳しくは 20ページ
- 名古屋市立大学と連携した発達障害に係る研究を踏まえた施策のあり方について検討(名古屋市立大学寄附講座) ➡詳しくは 22ページ
- 学校教育を補う学齢期以降の子ども発達支援のあり方の検討

家庭環境にかかわらず

子どもが適切な発達支援を受けられるためのしくみづくりの検討

- 発達支援が必要な子どもの幼稚園・保育所等における受入れ方法
- 幼稚園・保育所等に在園しながら地域療育センターの支援を受けられる体制を強化

子どもの発達に関する診療体制の充実(名古屋市立大学と協力・連携)

- 子どもの発達に知見を持つ医師や医療スタッフの育成・確保の方法について検討
- 名古屋市立大学病院、地域療育センター、地域の医療機関の階層的な診療体制の構築を検討

長期的な視点による人材育成のしくみづくり

- 早期子ども発達支援に携わる職員の人材育成のあり方について検討
- 保育士や医療専門職員の養成校の学生等が発達支援の必要な子どもに接する機会づくりの検討

子ども発達支援施策に係る検討体制及び支援体制等の再構築

- 子ども発達支援施策などの内部検討体制の再構築
- 子ども発達支援の行政計画の統合・整理について検討
- 各障害種別の支援の整理・体系化、事業、施設配置・運営について検討

発達障害者をみんなで支える社会を目指します。



「発達障害」という言葉はよく知られるようになりましたが、まだまだ正しく理解されていないのが現状です。みんなが「発達障害」について正しく理解し、必要な配慮をすることで発達障害者が感じる生きづらさを減らし、力を発揮しやすい社会にしていきたいと考えます。そのためにさまざまな企業や大学などと協力、連携して、発達障害児者への配慮や力を引き出す取り組みを行い、その情報を発信する「発達障害啓発プロジェクト」に取り組んでいます。発達障害を特性として受け止め、支援していく社会を作ること、早期子ども発達支援と子育て支援を一体的に進める環境を整備していきます。

発達障害児者を支える 縦のつながりと横のつながりづくり

発達障害は他の障害と異なり、就学前に発見や診断ができるとは限りません。学齢期に不登校をきっかけに発見されたり、大学進学や就職などライフステージの環境変化をきっかけに発見されることもあります。就学前の段階では子ども発達支援と子育て支援という横のつながりが大切になりますし、成長のどの段階でも適切な発見と支援ができ、ライフステージごとにつながるような縦のつながりも大切になります。「発達障害啓発プロジェクト」を通じて、このようなつながりづくりにも取り組んでいきます。

発達障害者の特性を活かす取り組み

発達障害の人はアートやITなどの特定の分野に強い特性を持つことがあることがわかってきています。それぞれの分野で発達障害が特性を活かして社会の中で力を発揮できるように、発達障害の特性を活かす取り組みが始まっています。

アールブリュット デザイン活用の例

障害のある方の制作したアートを行政や企業の広報等の媒体のデザインに利用する取り組みなどが増えています。「発達障害啓発プロジェクト」でもアールブリュットデザインをビジュアルデザインとして使用しています。

ニューロダイバーシティ

企業のダイバーシティ経営の観点で、一定の配慮や支援を行うことで「発達障害のある方に、その特性を活かして自社の戦力となっていただく」ことを目的としたニューロダイバーシティへの取り組みの関心が高まっています。アメリカでは特性を活かしてITエンジニアとして育成する取り組みが成果をあげています。

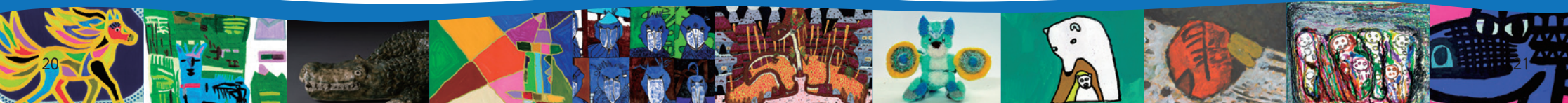
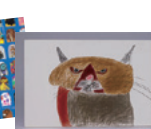
発達障害啓発プロジェクト



／ 缶マグネット ／



／ ポストカード ／



発達障害についての研究を進め、社会に発信していきます

発達障害は脳機能の発達に関係する障害であることは分かっていますが、まだまだ分からないことがたくさんあります。また、障害の特徴が非常に多様で、特性もさまざまです。適切な配慮をすることで「障害」ではなく「個性のひとつ」とすることができ、具体的な配慮の方法や特性の活かしかななどの研究を深める必要があります。名古屋市は**名古屋市立大学に寄附講座を設置**して、発達障害や発達障害児者の支援の方法などについて研究を進めます。研究の成果はみなさんに発信していくとともに発達障害児者の支援の施策に活かしていきます。

子ども青少年局が 市大寄附講座と一緒に進める取り組み

発達障害
についての研究

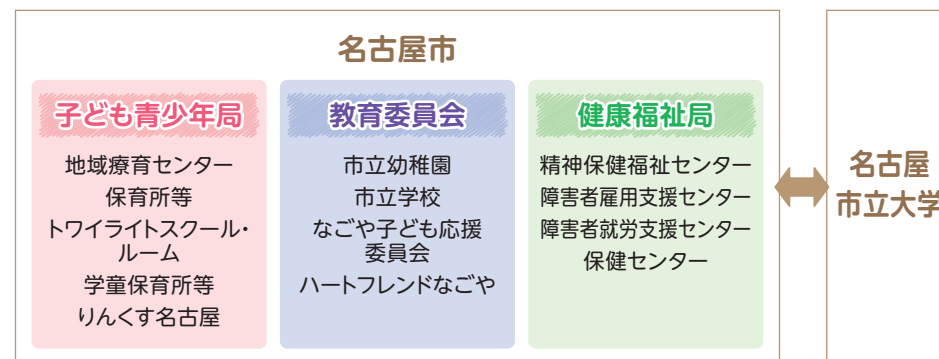
発達障害者の
診療体制充実
のための人材育成

発達障害者の
支援方法や
支援のしくみ
についての研究



こころの発達医学寄附講座との連携

名古屋市立大学と連携して、発達障害に関する知見の蓄積と医療・福祉・教育が一体となった発達障害児者への支援を目指していきます。



研究センターからのメッセージ

こころの発達医学寄附講座の活動

名古屋市立大学病院 こころの発達診療研究センター 医師 永井 幸代さん

私たちは、発達障害があるお子さんや大人の方への診療、研究、人材育成を行っています。診療では、なごや子ども応援委員会などからの、名古屋市優先枠を設けるなど、地域・学校と連携しながら診療しています。研究では、乳幼児期の親子への早期介入、スマートフォンを利用した保護者への支援プログラム開発、睡眠障害に関する論文の調査研究、エコチル調査のデータを用いた研究などを行っています。人材育成としては、大学病院での学生・医師の育成だけではなく、様々な学部と連携して心理士、理学療法士、作業療法士の教育・研究支援・共同研究も行っています。さらに発達障害を診療できる医療機関を増やすために開業医の方々へ向けた研修プログラムをスタートさせました。そのほか、地域療育センター、なごや子ども応援委員会へのスタッフ派遣など、名古屋市との連携事業も積極的に進めています。